

## 報告書抄録

ふりがな	じょうどやしき いせき							
書名	浄土屋敷遺跡Ⅱ							
シリーズ名	ほ場整備関係（経営体育成基盤整備）遺跡発掘調査報告書40-1							
編著者名	吉田 秀則・田中 咲子							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課			公益財団法人滋賀県文化財保護協会				
所在地	〒520-0044 大津市京町四丁目1番1号			〒520-2122 大津市瀬田南大萱町1732番2号				
発行年月日	平成25年（2013年）3月							
ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
じょうどやしき 浄土屋敷遺跡	ひがしおうみし 東近江市 かみひらき 上平木町	205	006	35° 10' 04"	136° 14' 63"	20090415 ～ 20091221	発掘 4,900㎡	経営体育 成基盤整 備事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
浄土屋敷遺跡	集落	古墳時代		竪穴住居		須恵器・土師器		
	集落	中世後期		掘立柱建物・溝・ 土坑・井戸・小穴		土師器・瓦質土器・ 陶磁器		
	耕地	近世以降		井戸		陶磁器		
要約	<p>これまで「浄土屋敷」という伝承にすぎなかった中世集落の存在が、調査の結果、堀と溝で一定の規則性を保ちながら囲われ計画的に集落が形成されていたことが判明した。複数の屋敷地が整然と堀や溝を共有しながら集落を構成しており、この構造は14世紀後半から15世紀の集落が集住化する傾向にあることと一致している。このような中世集落における溝による区画の存在は、古代から中世へ、中世から戦国期の中世動乱期にいたる集落の構造変遷を投影した集落形態として注目される。</p> <p>また、古くから水利に乏しい地形条件であったこの一帯であるが、縄文時代、古墳時代、平安時代、中世、近世へと連綿と生活が営まれていたことが明らかとなった。特に、中世～近世そして現代にわたり、水利開発に苦悩した様子をたどることができる。</p>							